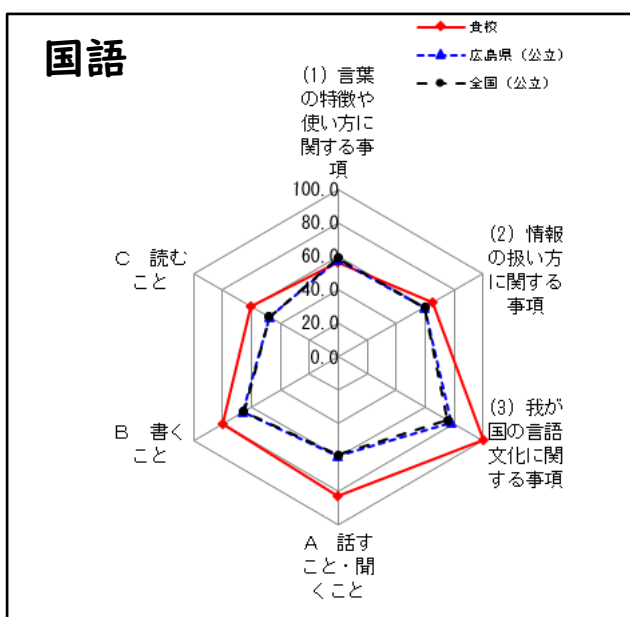


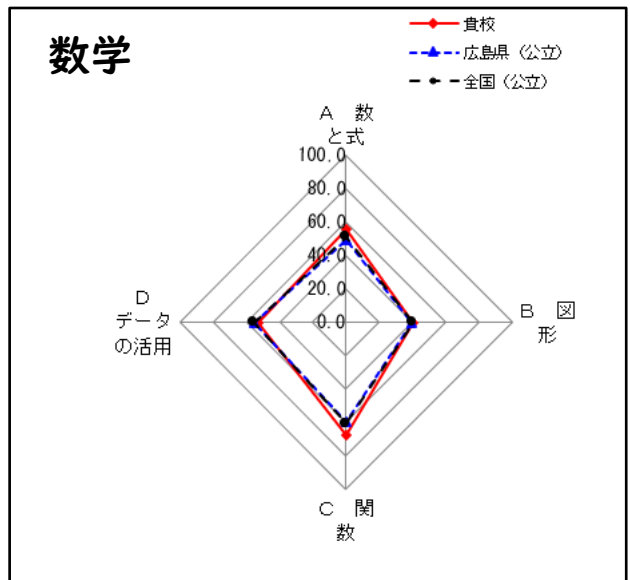
1 調査問題の分析・考察及び指導改善計画

	国語	数学
全国(公立) 平均正答率(%)	58.1	52.5
広島県(公立) 平均正答率(%)	58	52
本校 平均正答率(%)	70	55



すべての領域で全国平均正答率を上回ったことから、特に力を入れて取り組んでいるグループやペア学習、音読の効果と考えている。

今後の授業改善の方向性としては、情報と情報をつなげて考える授業展開や、知識として身についた言葉の特徴を各領域で使えるように、自分の考えを形成した過程を説明したり、作文したりするなどを仕組むなど、言葉をさらに活用した授業改善に取り組みたい。



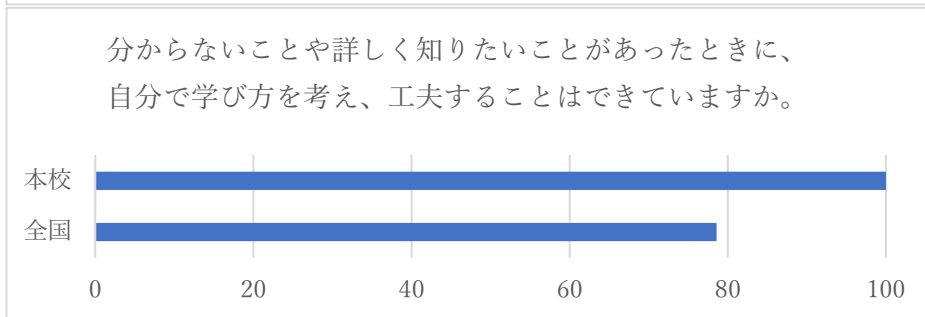
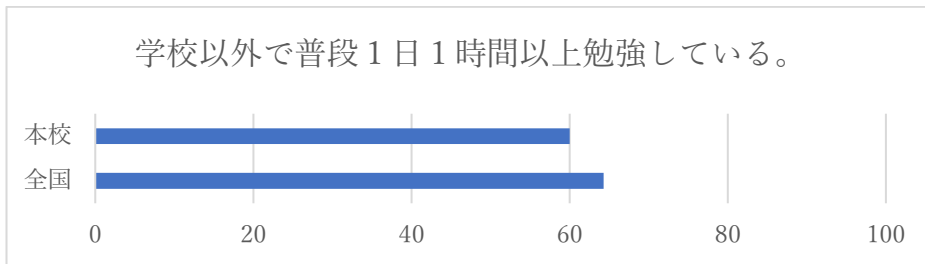
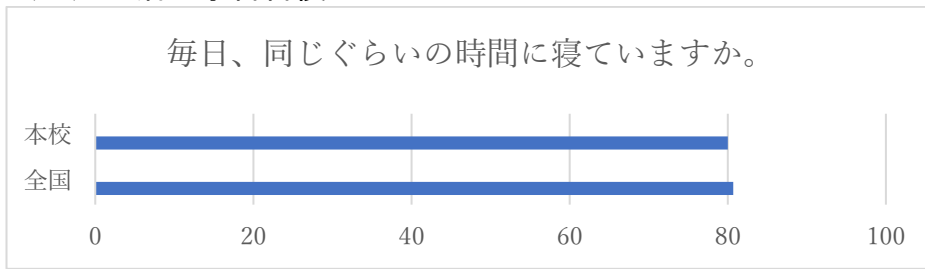
数と式・関数の領域では、全国の平均正答率を上回っている。

事柄が成り立つことを説明する問題や、筋道立てて考え、証明する問題において、正答率が低かったことから、今後の授業改善の方向性としては、数学的な見方・考え方を働かせながら、論理的に説明する機会を意識的に増やしていく。また、問題を解いて終わりではなく、解答に至る理由を説明し合う授業展開を仕組むなど積極的に授業改善に取り組む。その際には、数学的用語の正しい理解にも取り組む。

2 生徒質問紙の分析・考察及び指導改善計画

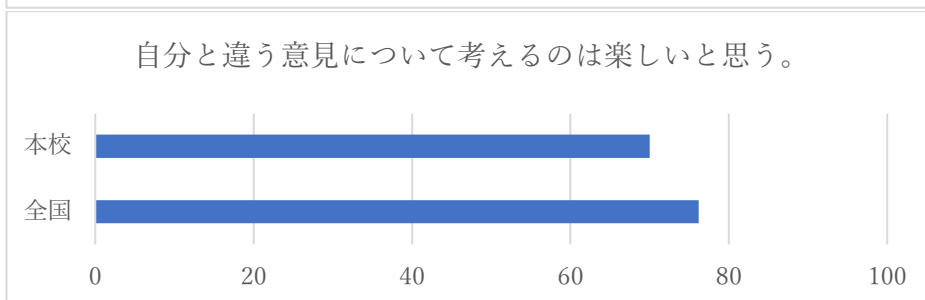
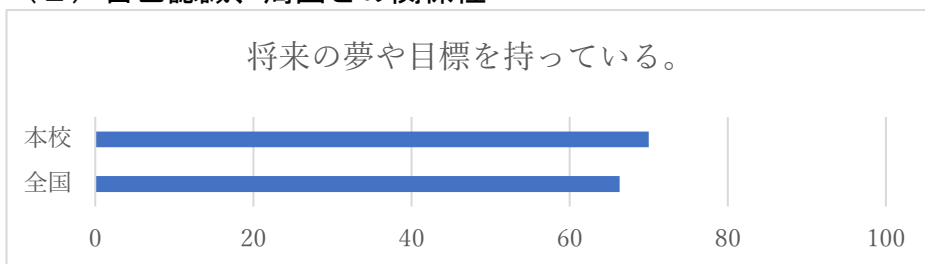
※グラフは肯定的割合(%)の比較

(1) 生活・学習習慣

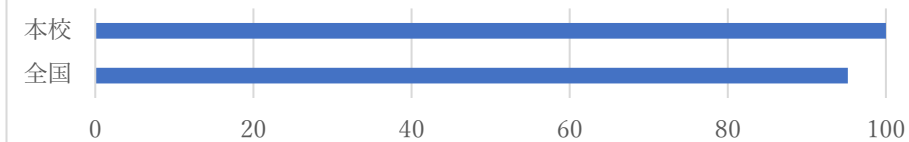


集計結果から、基本的な生活習慣は概ね身に付いていると言える。その一方で、1時間以上家庭学習をしている生徒の割合が、約60%と少ない。わからないことや興味・関心のある事柄について、自ら考え積極的に取り組むことができていることから、意欲的な家庭学習につながるような授業での工夫が必要であると考えます。

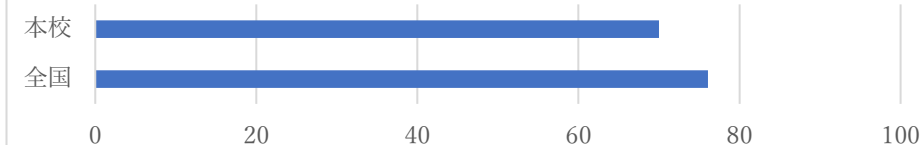
(2) 自己認識、周囲との関係性



人の役に立つ人間になりたいと思う。



地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いませんか。



人の役に立ちたいと考えているものの、個性や考えの違いに興味をもったり、多様な他者と人間関係を築いたりすることにあまり積極的でない。自分の個性や特徴などを見つめ、自己理解を深めるとともに自己開示していくことが必要である。キャリア教育の視点をもって自らを見つめ、外部の人と関わる機会を増やすことで自主性を高めたい。

なお、本調査結果は、学力の特定の一部であり、本校教育活動の一側面についての結果です。